

# 中堅・中小企業における I o T 活用のために（対処方針）

## 基本メッセージ

- I o T は、経営や生産現場の課題を解消するためのツールだが、「高度で手の届かないツール」との認識は不要。**それぞれの企業の身の丈に合った活用方法がある。**
- 一方、I o T を活用したものづくりのルール形成の結果、例えば「製品や工程の質が使っている機械のブランドで判断される」ように、場合によっては **I o T 導入が「頼れる企業」の前提条件になり得る** ことについて、全ての中堅・中小企業が留意すべき。

## 地方の主導権でつくるもの

- ・地域の意欲のあるプレイヤーが主体となり、必要な環境やサポートを体制を整える。
- ・まずは、意欲のある自治体等をモデル地域に指定し、取組を開始。

### 1. 事例集の策定

- －身近な企業の身の丈の取組を集約。「あの会社もやっている」「これも I o T」等の気づきを。
- －分類やフレームワークを全国で統一。

### 4. I o T コンサルタントの育成

- －コンサルタントには、経営指導、メカ、エレキ、I T、システムインテグレーション、カイゼン等複数の領域の知識が求められることから、個人でなくチームで運営すべき。
- －まずは、こうした体制が構築できる/構築する意欲のある地域で試行的に開始。
- －別途、経済産業省において調査事業を実施。必要な体制やスキルについて明確化し、体制構築の一助とする。

### 7. ツール開発

- －中堅・中小企業の小さな困りごとの吸い上げと、それを解決する小さなツールの提供（双方向性）が重要。
- －汎用的で重厚なソフトウェア/システムよりも、「簡易なハードウェアやそれに付随するほんのちよつとの I T」が有効な例も多い。中堅・中小企業どうしの互助が可能な仕組み（体制構築）を目指す。

## バックアップ

## 中央に1つつくるもの

- ・上記、地方の取組を中央からバックアップする仕組みと情報集約機能を整える。
- ・簡易に更新できて、予算に頼らず自律的に継続できる仕組みを持ったポータルサイト等を検討。（例えば、ツール提供者からのスポンサーシップで運営する電子書籍）

### 2. 費用対効果モデル

- －I o T 導入のケース分類を一覧でき、その効果を計算できる簡易なツールの提供。

### 5. ツール情報の一元化

- －ユーザーたる中小企業のみならず、コンサルタントも参照できるツール一覧の提供。

### 7. ツール開発

- －中堅・中小製造業のためのツール開発コンペを開催。

## その他

- ・10. ネットワーキングについては、本会合メンバーによるモデルプロジェクトを実施。
- ・3. システムインテグレータ及び6. 大企業共通の課題については、引き続き、ロボット革命イニシアティブ協議会 WG1（I o T による製造ビジネス変革WG）において検討。
- ・8. 資金支援については、上記アクションを実施した上で要検討。
- ・9. データ所有権については、中長期的な検討課題として引き続き検討。